

九州歴史資料館編集

『大宰府政庁跡』の刊行

大宰府は、「大君の遠の朝廷」と謳われる、古代律令制下の外交と交易、西海道諸国支配の重要拠点である。その中枢部で、菅原道真が「都府楼」と詠んだ政庁の発掘調査報告書が刊行された。

大宰府の発掘調査は一九六八年より永年にわたり、その成果は膨大である。本書は、そうした発掘成果と、最新の成果をあわせて集大成したものである。

遺構や出土遺物の豊富な写真を駆使している。また木簡の再読も行っている。A4判・上製・函入・外箱付・七二二頁（原色口絵八頁・折込九丁・付図二丁）。

なお、発売は吉川弘文館から。頒価は二八〇〇円（税別）。